第25回（平成28年度）りゅうぎん紅型デザインコンテスト　デザイン賞
「空を泳ぐ」座波　千明

りゅうぎん決算発表

平成28年9月期

■決算の概要（単体）

4期連続の増収増益（中間純利益ベース）

（単位：億円）

	28年9月期	前年同期比	27年9月期
経常収益	201	+3	198
業務粗利益 (a)	162	+3	159
経費 (b)	115	+4	111
実質業務純益 (c=a-b)	47	0	47
ネット与信コスト (d)	1	+1	0
その他臨時損益 (e)	▲3	▲1	▲2
経常利益 (f=c-d+e)	43	▲2	45
中間純利益	32	+1	31

※前期比は表上計算

■決算の概要（連結）

グループ各社堅調に推移するも特別利益反動減により増収減益

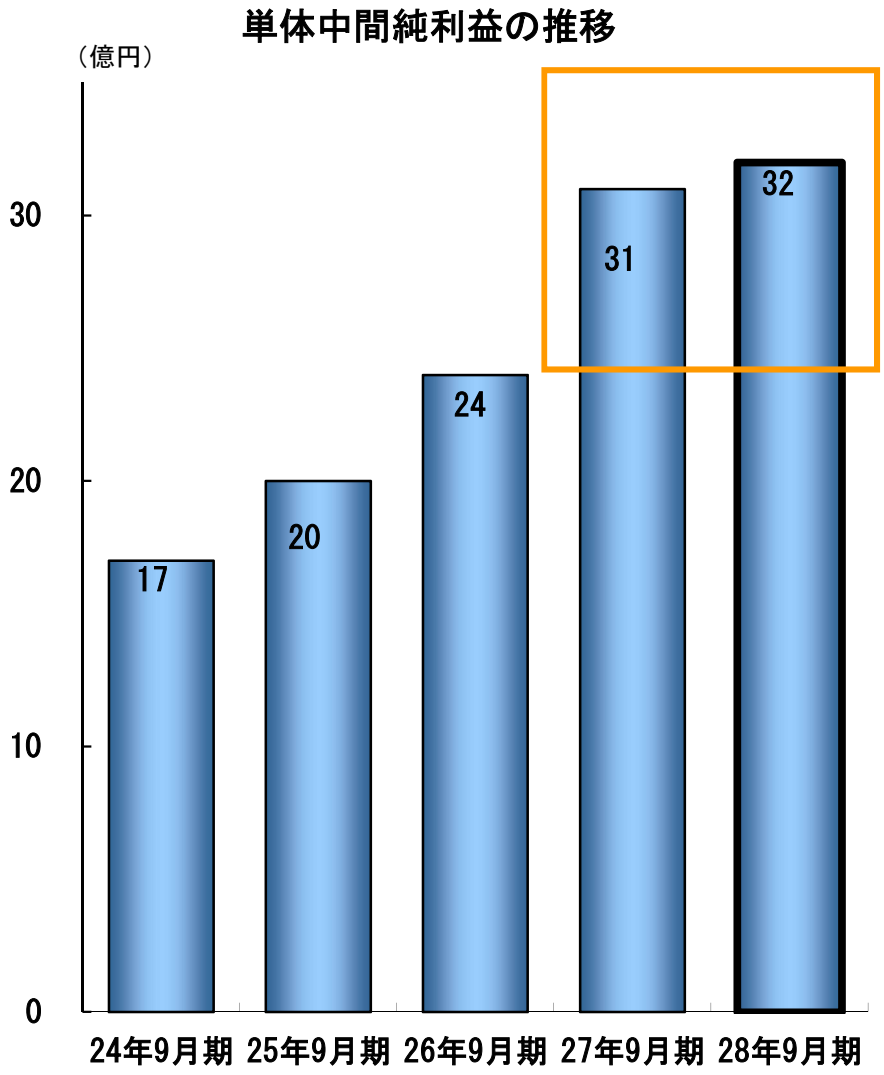
（単位：億円）

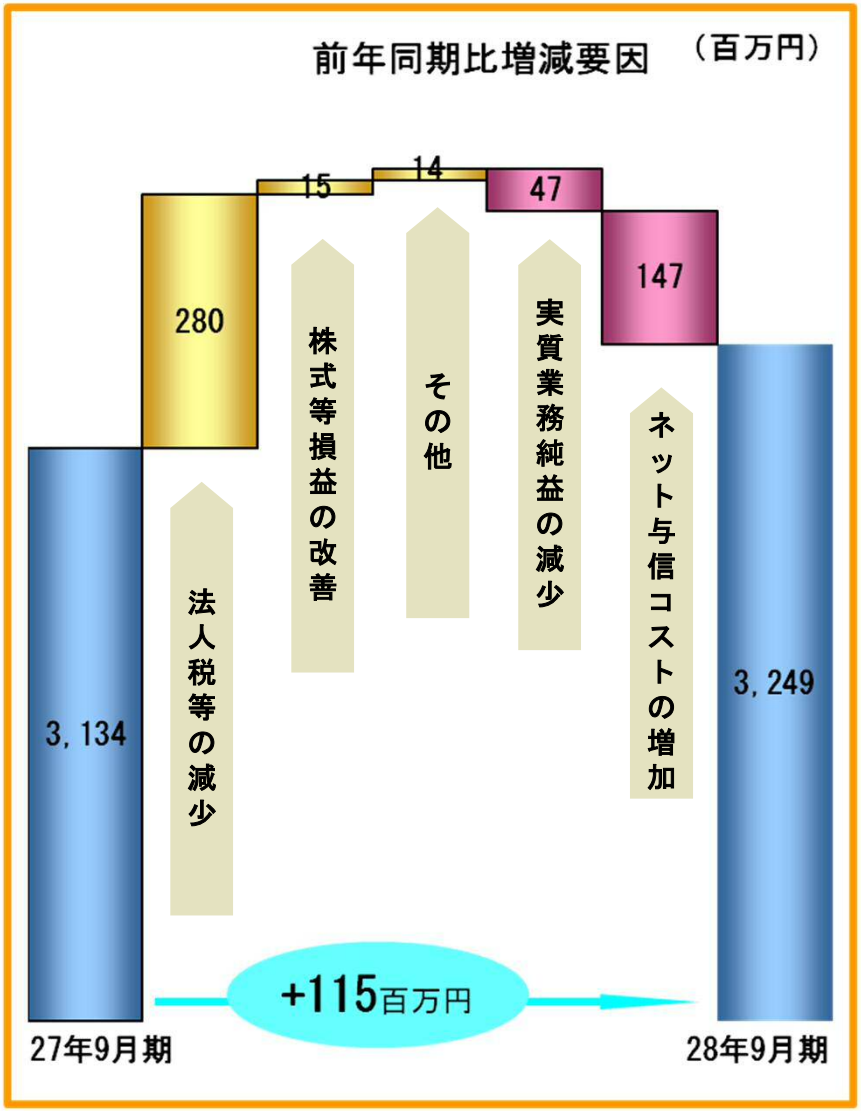
	28年9月期	前年同期比	27年9月期
経常収益	299	+3	296
経常費用	242	0	242
経常利益	57	+4	53
特別損益	0	▲43	43
うち負ののれん発生益等	0	▲43	43
親会社株主に帰属する中間純利益	41	▲37	78
（負ののれん発生益等を除いた場合）	(41)	(+6)	(35)

※前期比は表上計算

■中間純利益の増減要因（単体）

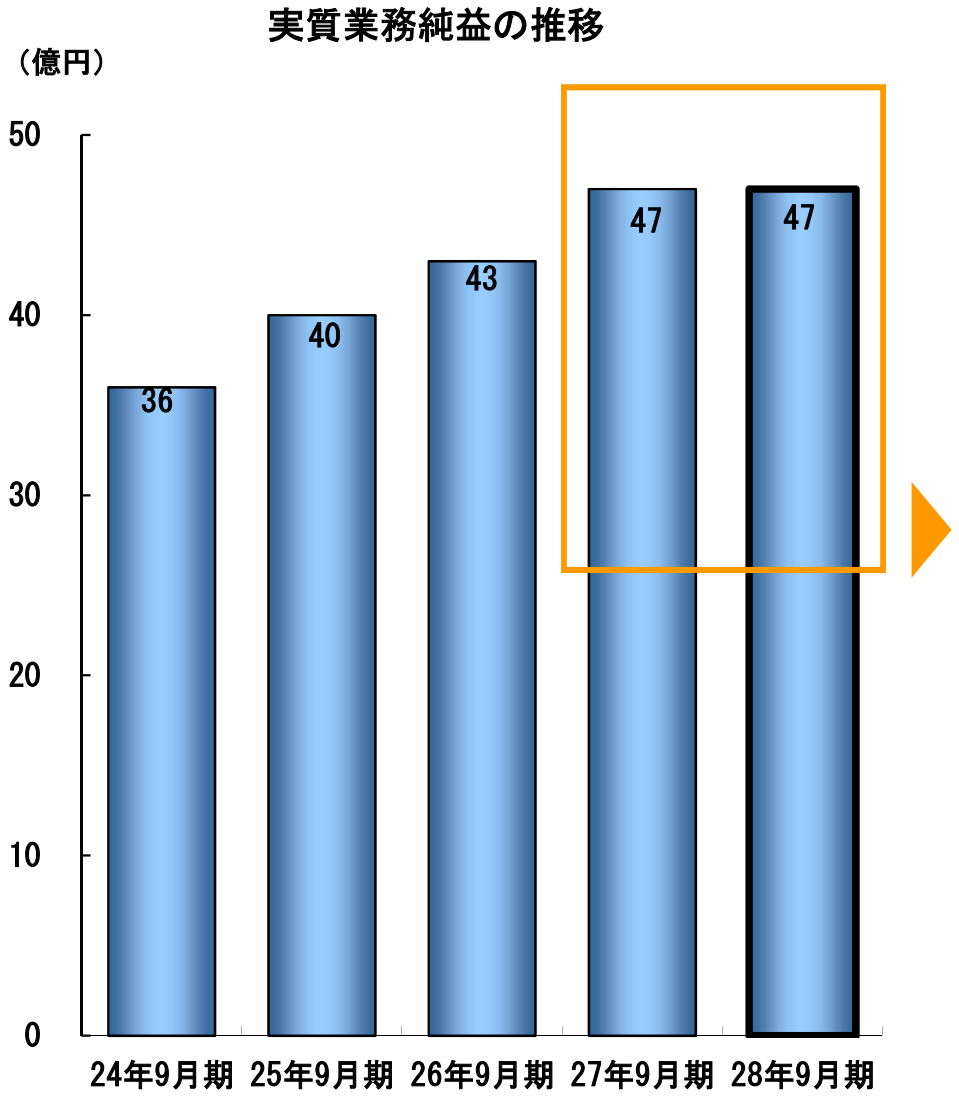
法人税の減少等により増益

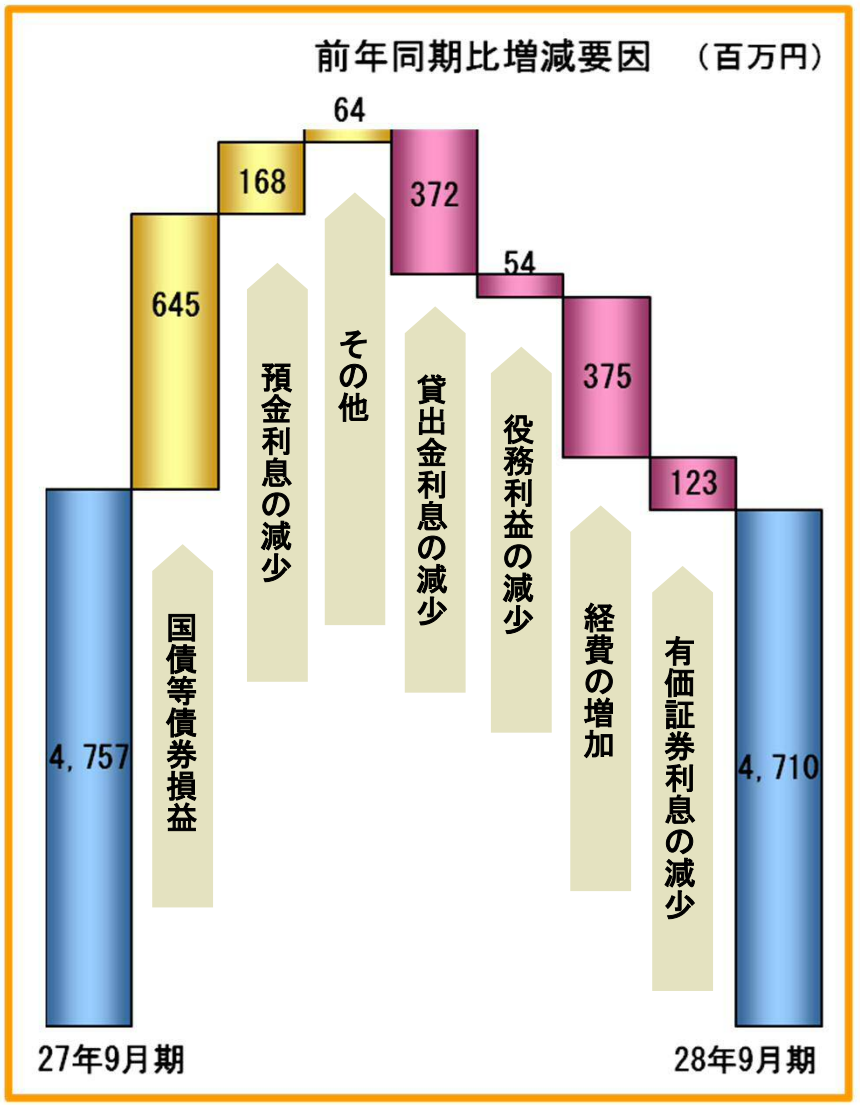




■実質業務純益の増減要因（単体）

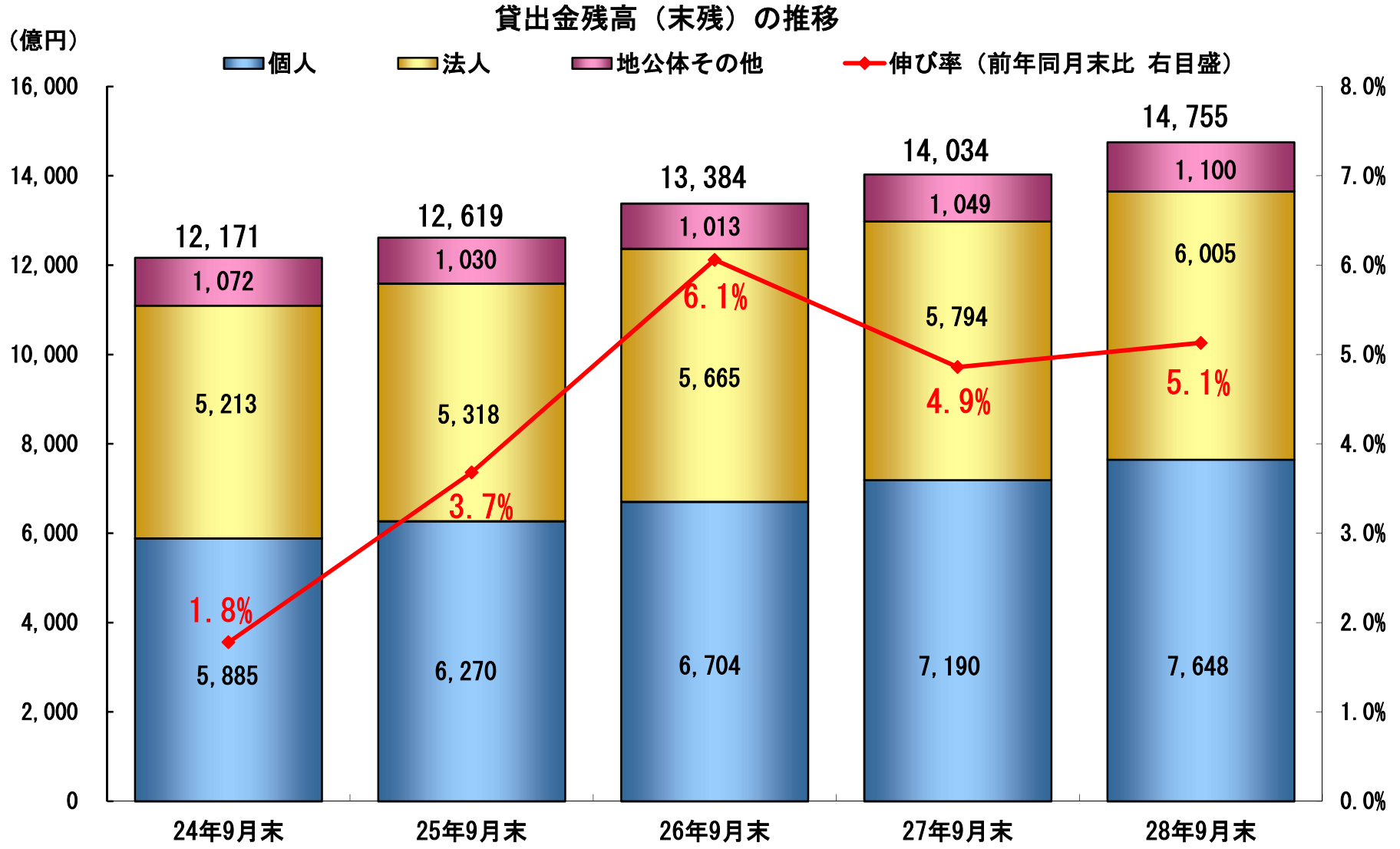
国債等債券損益の増加等により前年並みを確保





■貸出金（単体）

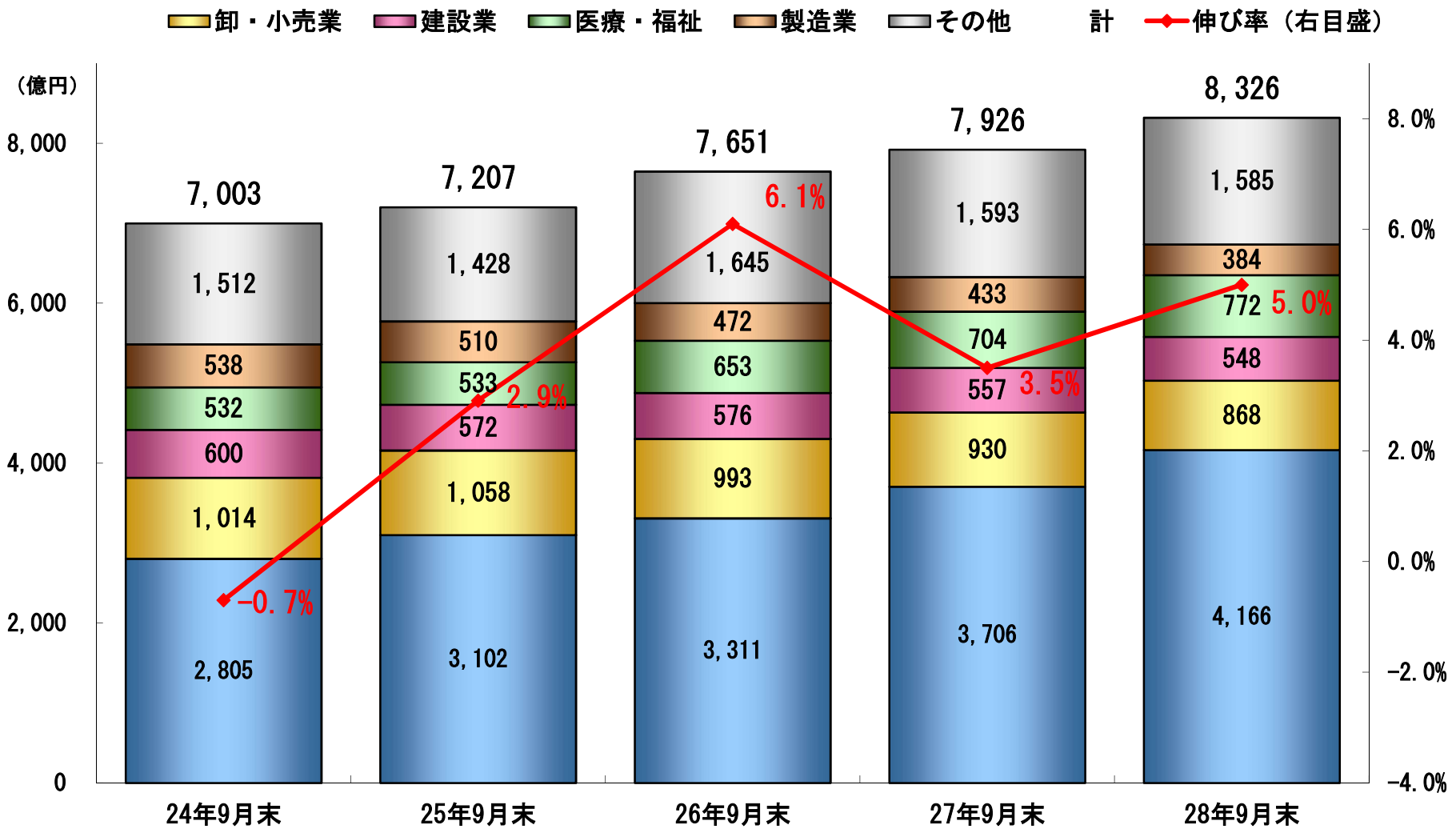
個人向け・法人向けとも順調に増加



■貸出金（事業性）

不動産・医療関連を中心に順調に増加

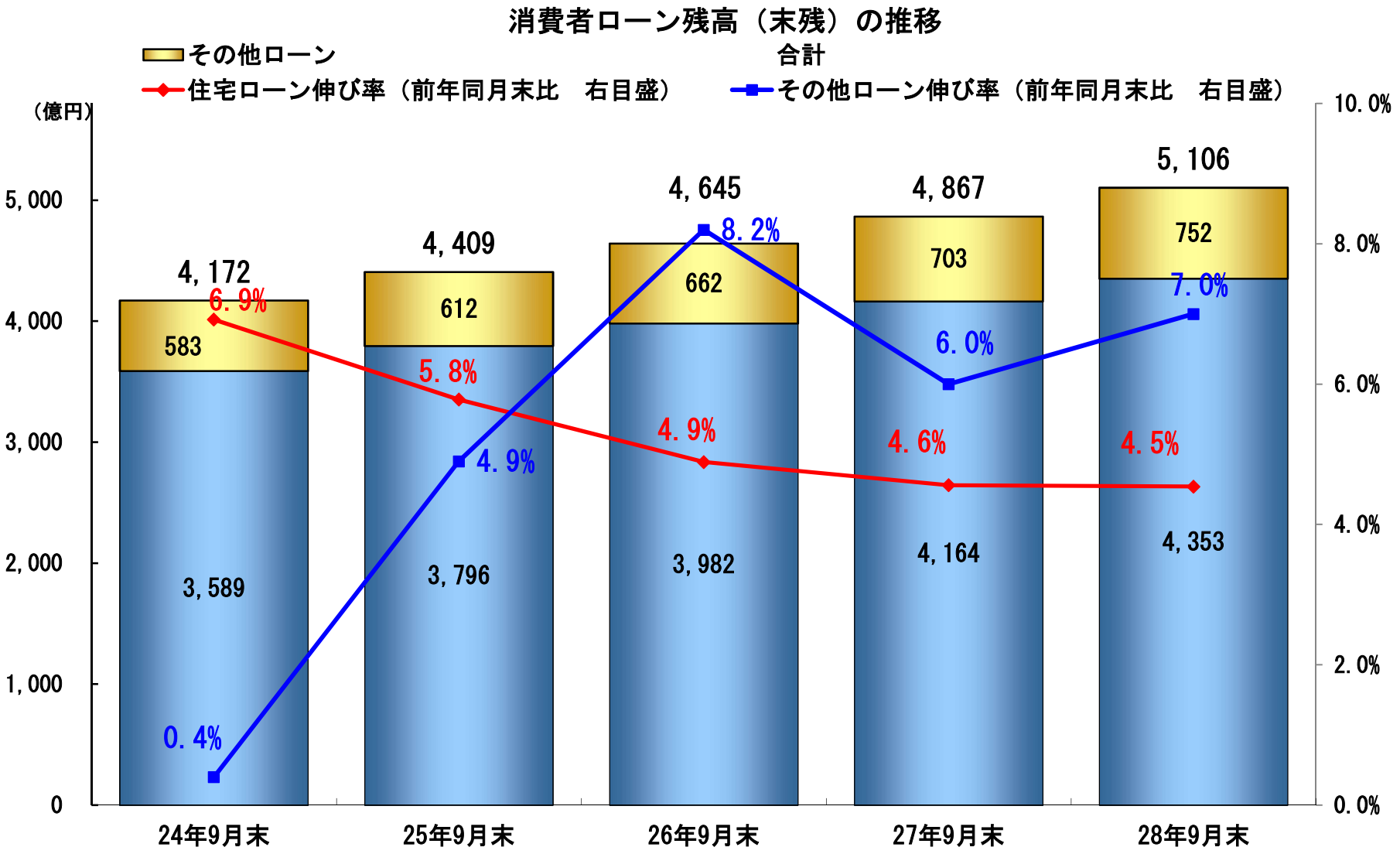
事業性貸出金残高（末残）の推移



＊個人事業性貸出の取扱いが異なることからP5■貸出金の「法人」とは一致しない

■貸出金（消費性）

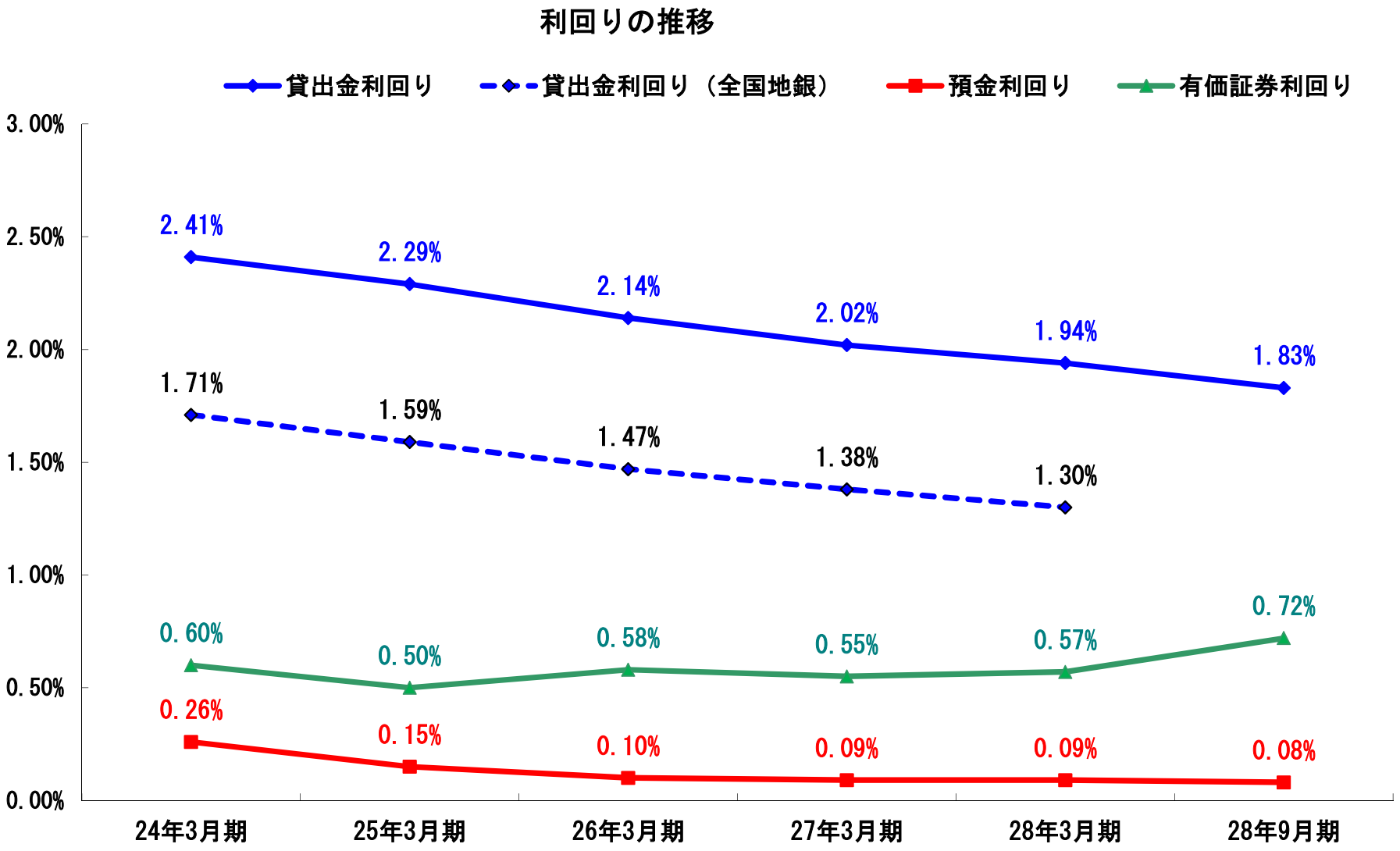
住宅ローン・消費者ローンともに順調に増加



＊個人事業性貸出が含まれないことからP5■貸出金の「個人」とは一致しない

■利回りの推移（単体）

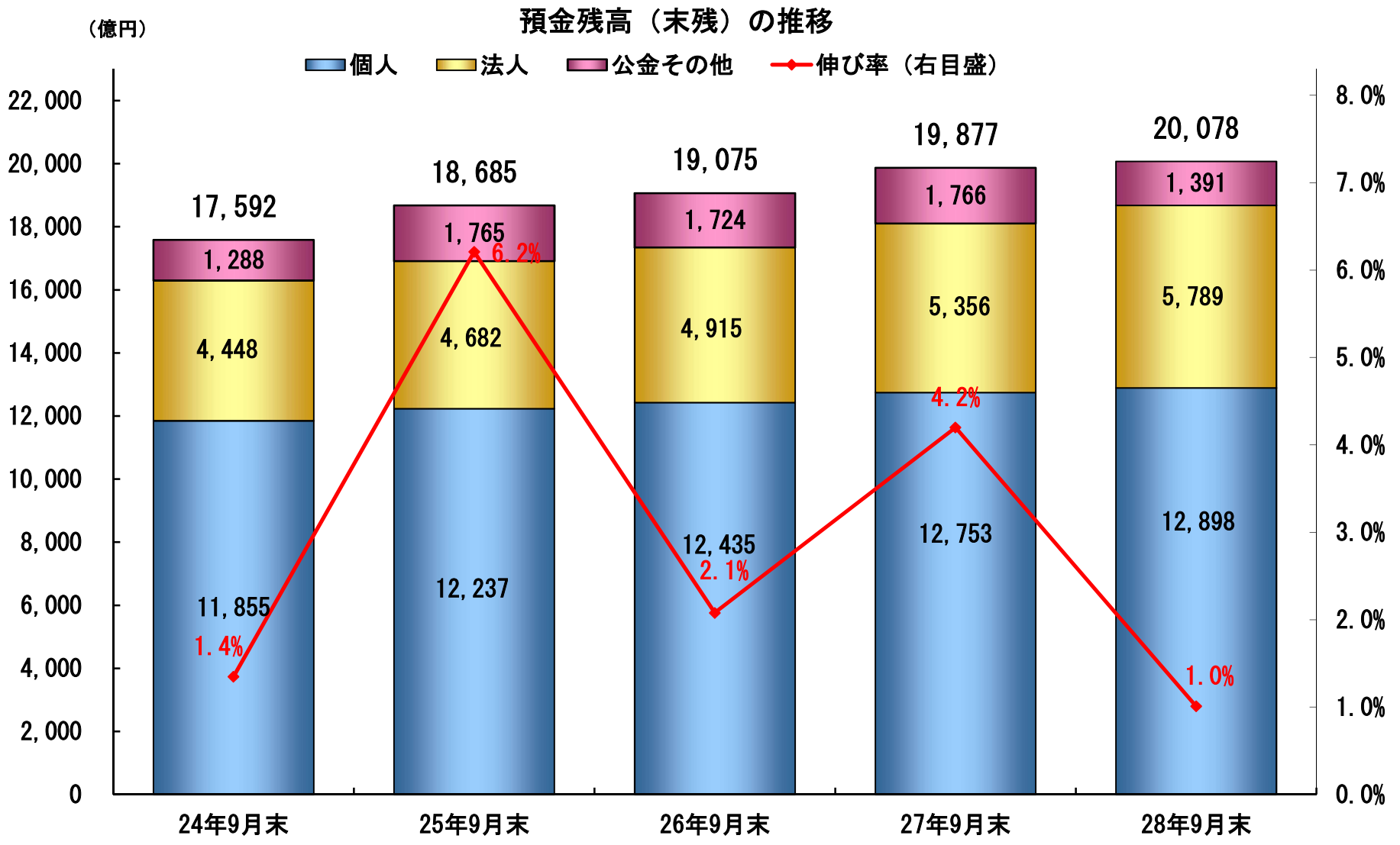
有価証券利回り改善するも貸出金利回りの低下が続く



＊「貸出金利回り（全国地銀）」は全国地方銀行協会資料より作成

■預金（単体）　※譲渡性預金を含む

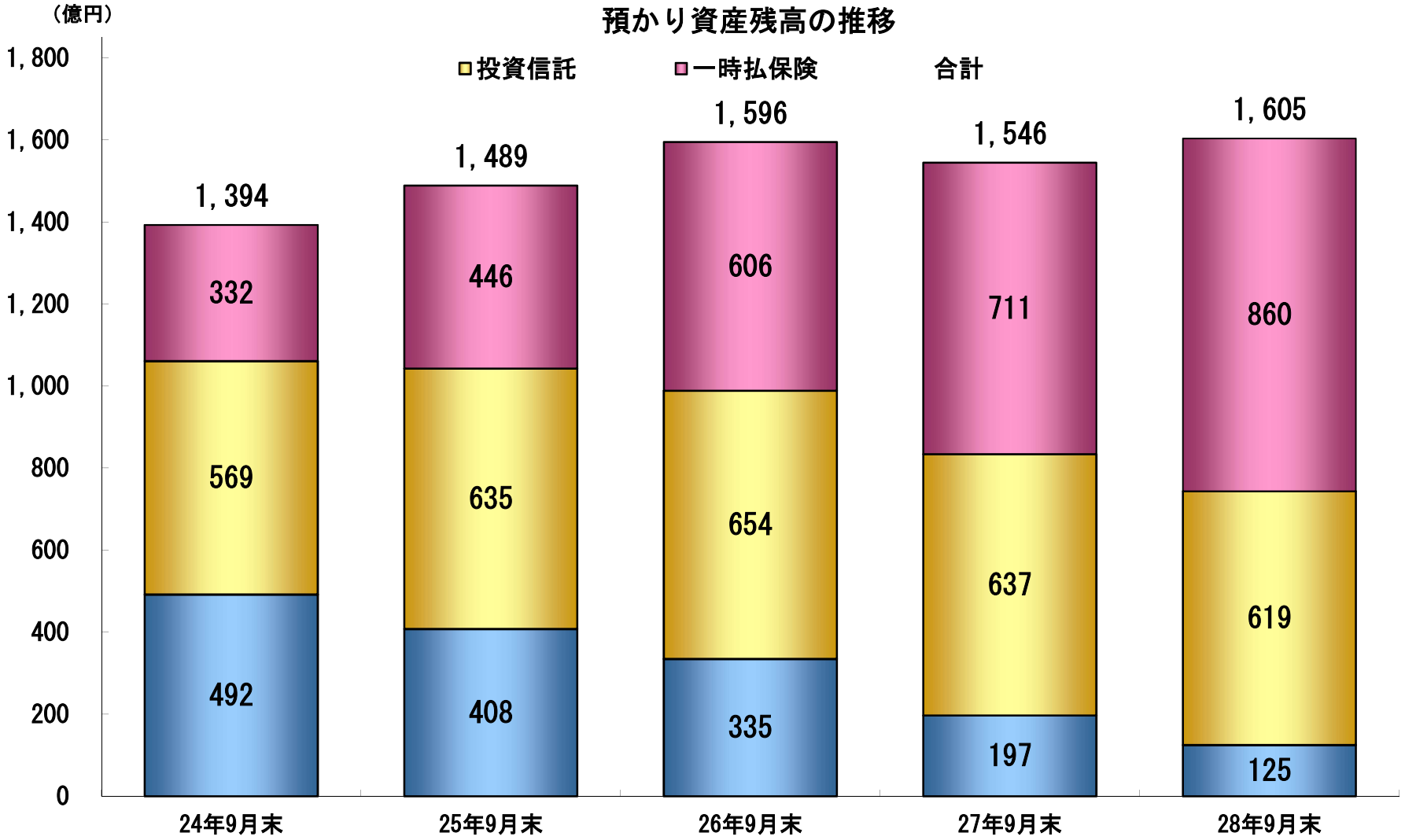
個人および法人預金が順調に増加



※譲渡性預金を含む

■預かり資産（単体）

国債・投資信託減少するも保険販売好調に推移し全体では増加

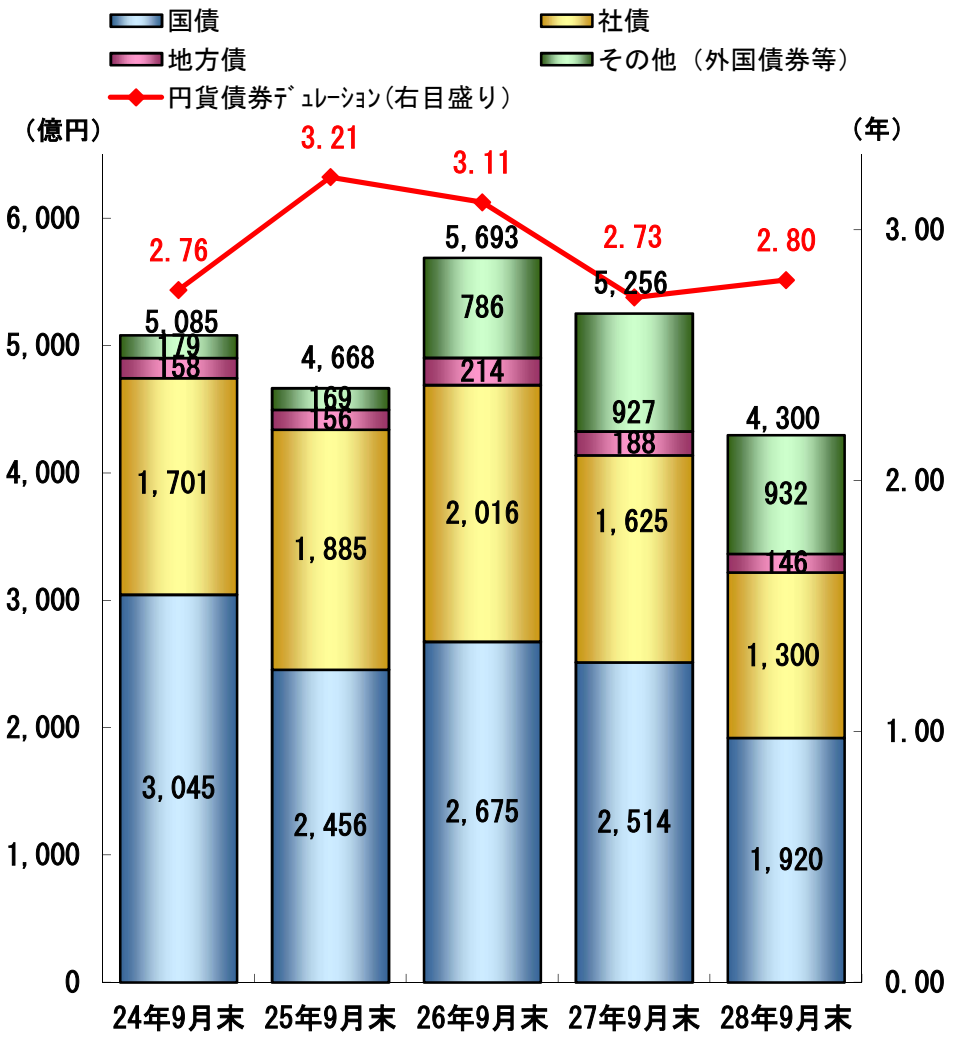


＊一時払保険：一時払個人年金保険、一時払終身保険、一時払医療保険

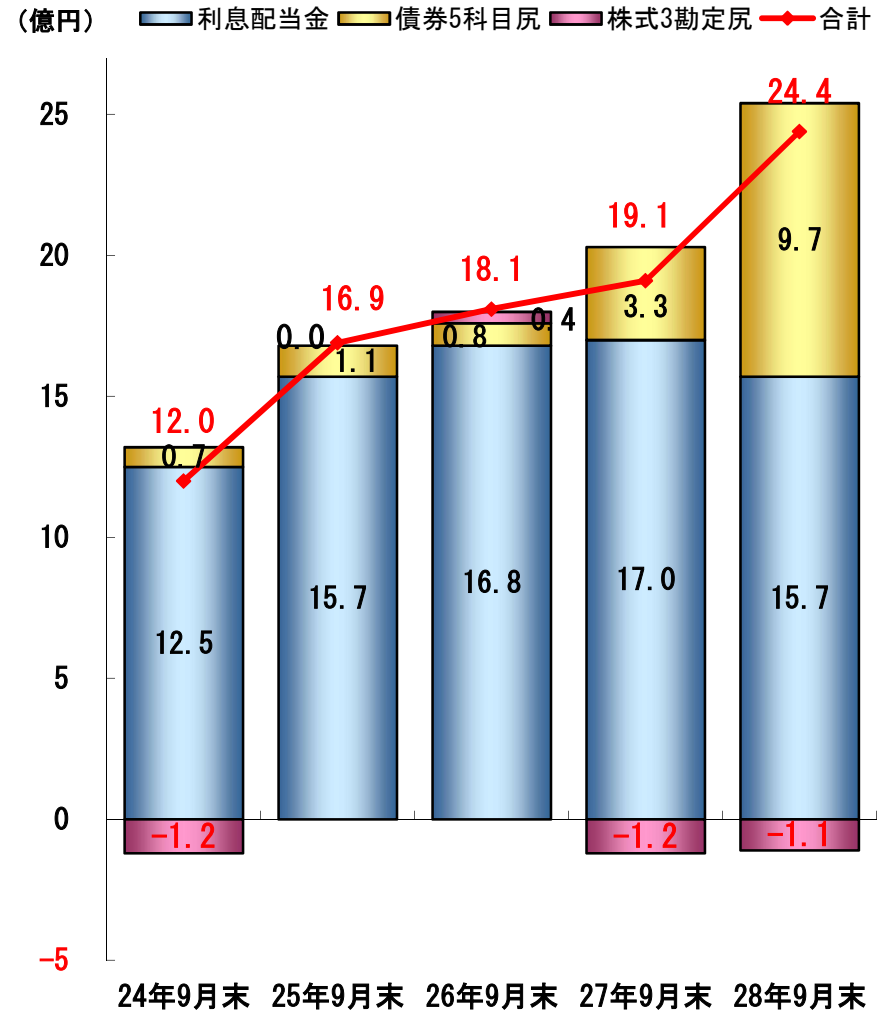
■有価証券（単体）

国債の償還等により残高減少するも収益は順調に増加

有価証券残高（末残）の推移

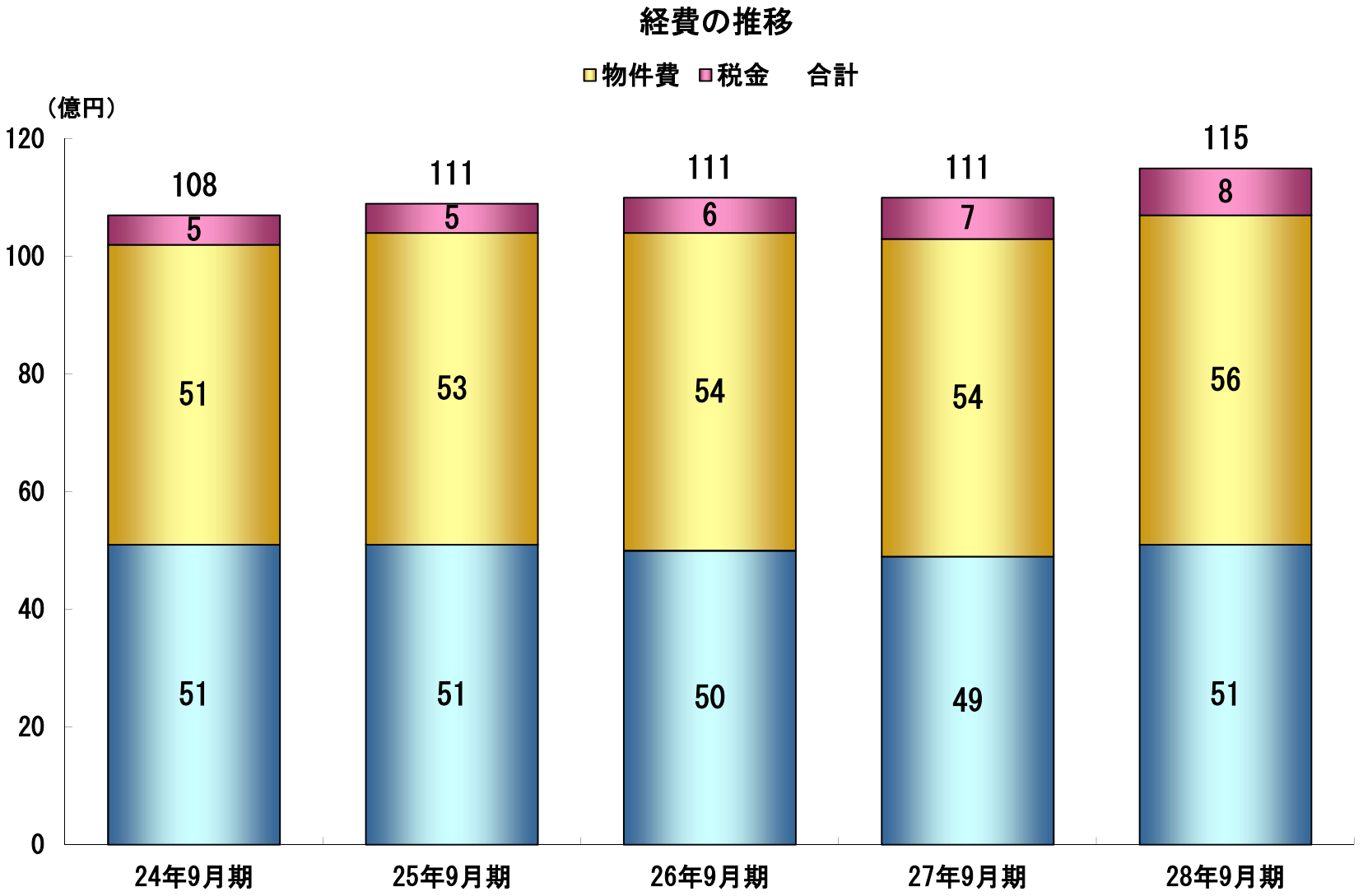


有価証券関連収支の推移



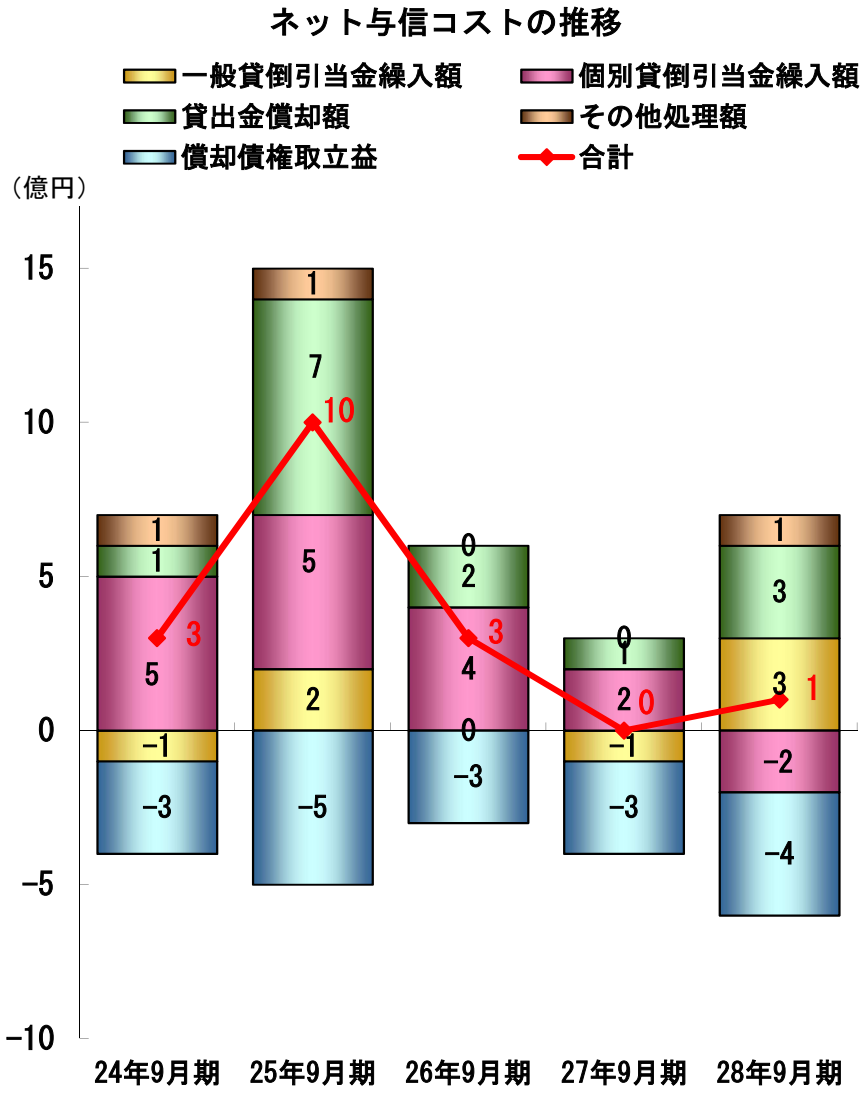
■経費（単体）

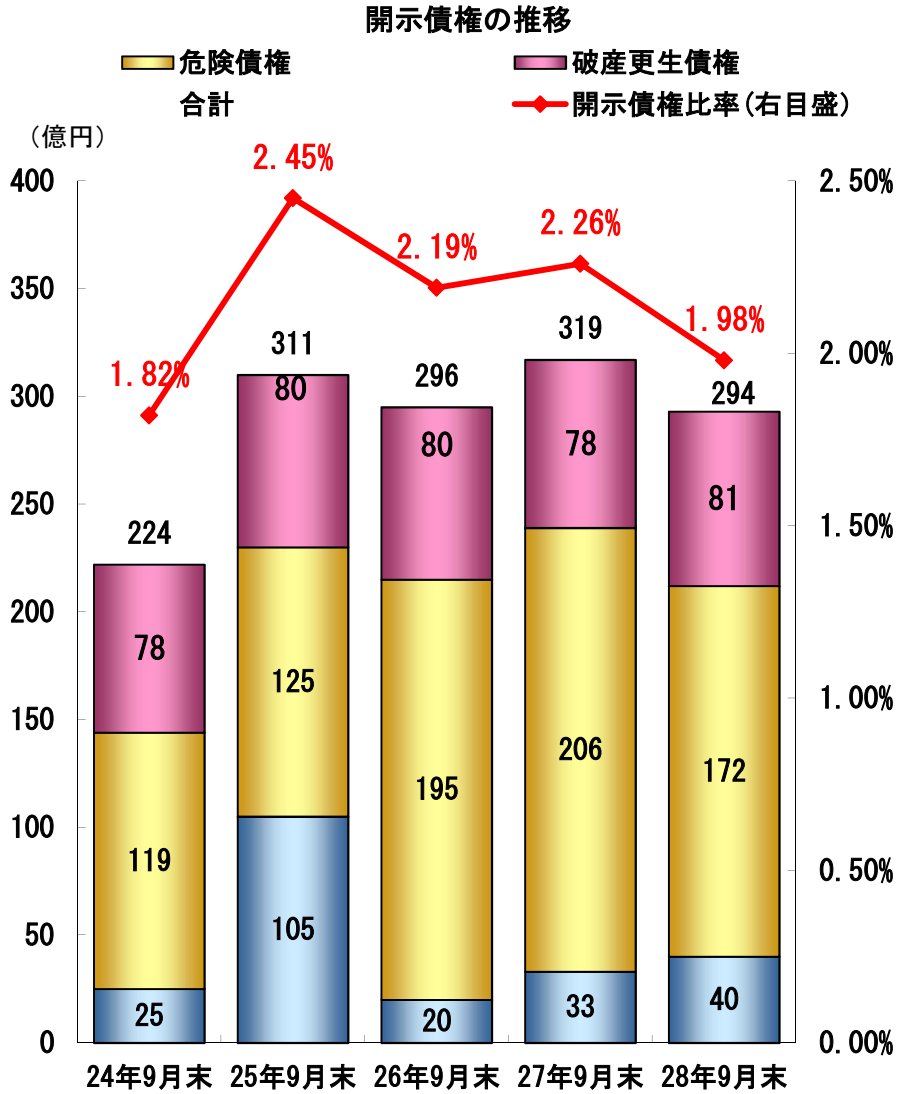
システム投資等により経費は増加



■与信コスト・開示債権（単体）

与信コスト・開示債権とも低位推移

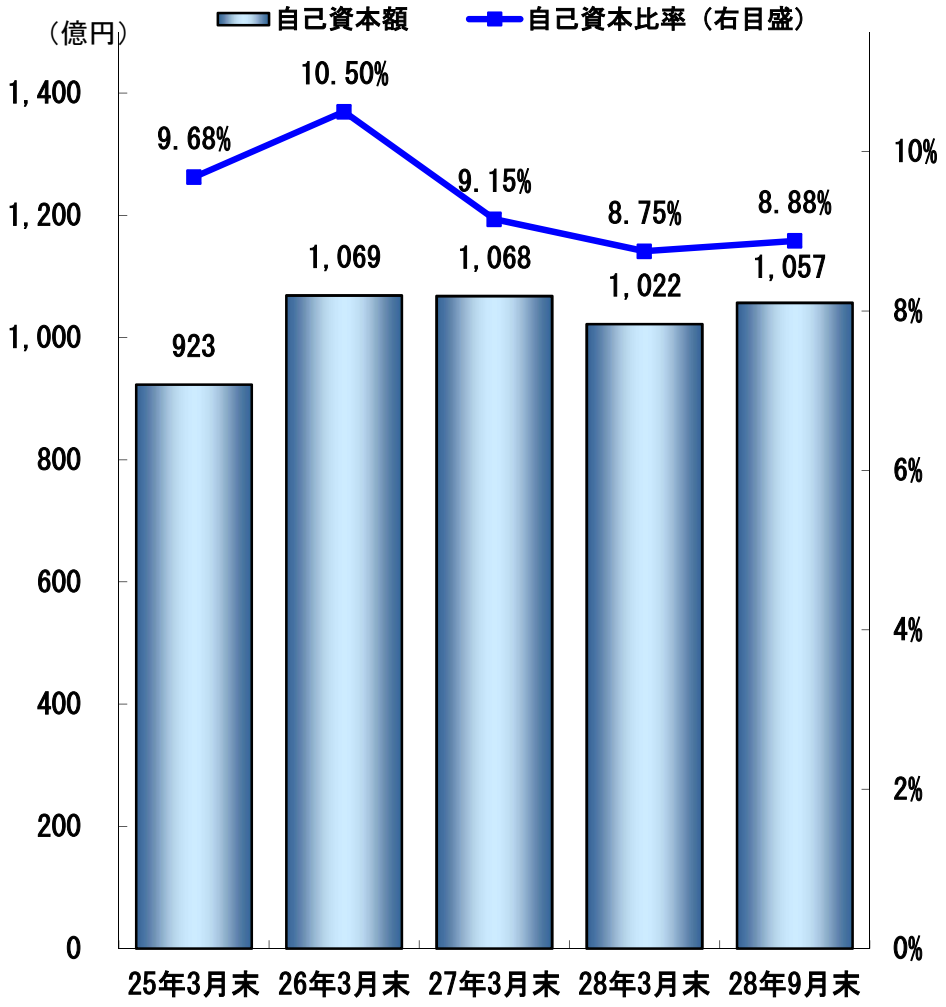




■自己資本比率（単体）

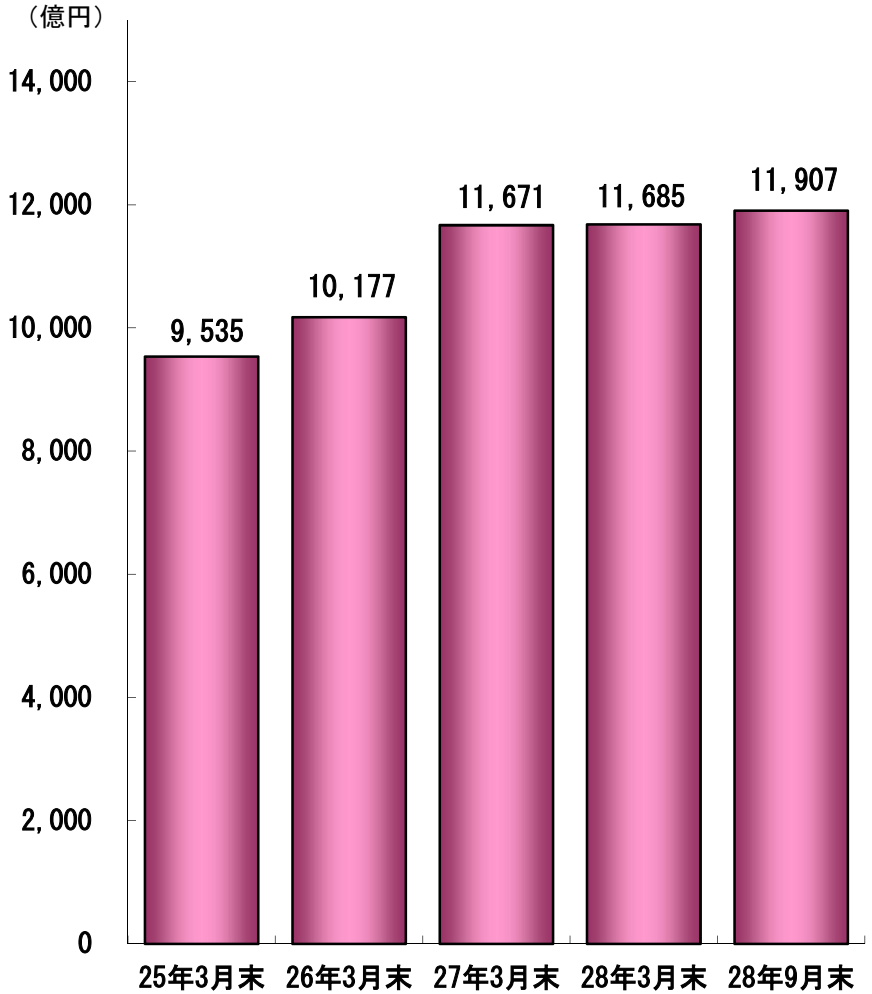
利益の積み上げにより、自己資本比率は上昇

自己資本比率の推移



＊26年3月末よりバーゼルⅢ国内基準にて算出しております。

リスクアセットの推移



■29年3月期業績の見通し（単体）

当初予想より修正なし

（単位：億円）

	29年3月期 予想	前期比	28年3月期 実績
経常収益	387	−15	402
経常利益	64	−19	83
当期純利益	43	−7	50

※前期比は表上計算

業績予想に関する補足説明
平成29年3月期通期の業績予測につきましては、日本銀行のマイナス金利政策による貸出金利息（資金運用収支）等並びに今後の金融市場動向や経済情勢等による有価証券関係損益の見通しが困難なことから、今回業績予想の修正はおこなっておりません。
今後業績予想の修正が必要となった場合には速やかに公表いたします。

■29年3月期業績の見通し（連結）

当初予想より修正なし

（単位：億円）

	29年3月期		28年3月期
	予想	前期比	実績
連結経常収益	590	-9	599
連結経常利益	77	-23	100
親会社株主に帰属する当期純利益	49	-54	103
1株当たり年間配当金	35円	-	35円

※前期比は表上計算

■本資料について

本資料に係るお問い合わせ先

株式会社　琉球銀行　総合企画部

Tel　　：098-860-3787
Fax　　：098-862-3672
e-mail　：ryugin@ryugin.co.jp

本資料は、お断りのない限り単体ベースのデータとなっています。

本資料は、公表データの作成要領に基づき、項目ごとに単位未満切捨てで表示しているため、項目ごとの値と合計とが合わない場合があります。

本資料には、当行に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する情報（将来情報）が含まれています。これら将来情報は、あくまで平成28年11月4日現在において入手可能な情報に基づいて判断されたものであり、将来の業績等を保証するものではありません。また、将来情報の記述には一定の前提・仮定を使用しておりますが、かかる前提・仮定は客観的には不正確であったり、将来実現しない可能性があります。その原因となるリスクや不確実性には様々なものが含まれますが、その詳細については当行の決算短信や有価証券報告書等をご参照ください。なお、当行は本資料に含まれる将来情報の更新はいたしません。